

2021年度大阪女学院事業計画策定にあたって

I. はじめに

大阪女学院の歴史と建学の精神、創立140周年に向けて大阪女学院全体像を展望している「VISION OJ140」、第Ⅲ期中期計画(2020～2024年度)及び2020年度の計画推進の進捗状況を踏まえて、2021年度事業計画を策定する。特に、新型コロナウイルスの感染が続くという想定の中で、その時々が生じる多様な課題に対応し、学院の基本となる考え方に立ち返りつつ、教育・研究の歩みを進める。また、キリスト教教育を土台として、女子教育、英語教育、平和教育、人権教育(解放教育)を継承・発展していくことを基本姿勢とし、コロナウイルスの感染を含めた環境変化に柔軟に対応し、健全な学院運営の構築を目指す。

国は、2040年の社会の姿をSOCIETY5.0・第4次産業革命、グローバル化、人生100年時代、持続可能な開発目標(SDGs)、人工知能(AI)等の言葉で表現し、教育の課題と方向性を、18歳人口及び大学進学者数の減少(2040年の減少率:25～20%)とコロナウイルス感染対策を前提にして、社会の変化に対応できる人材の養成、見える学習成果と社会への貢献、教育の質保証、GIGA(Global and Innovation Gateway for All)スクール構想、先端技術導入による個別最適化された学び等を掲げ、教育機関のあり様(教学マネジメント、ガバナンス、情報公開、協働・連携の教育活動、リーダーシップ等)を「多様性」という言葉で方向性を示している。同時に、グローバル経済に耐える人材の養成、国際競争力を高めるための能力を養成し、国力の向上に繋げることを目指している。

しかし、未来への展望や予測は不透明であり、特にコロナ禍の中でどのような事態が発生するかは予測困難になっている。私たちは、私たちが生きている場や仕えている場、大阪女学院で、「今、その時、そこで」起きていることに対応することが最優先課題であることを自覚しておきたい。そして、その時々適切な行動で対応するためにも、精神的、身体的、知的な備えをしておきたい。

コロナウイルスのパンデミックは、地球全体の課題を地球全体で解決する力を結集することを願うものであったが、自国優先、自分の国、自分の住む場所、自分さえ良ければという考えに陥り、格差はより顕在化し、差別と分断を生み、弱い立場にある人びとがより弱くされていく状態に向かっている。この時こそ、私たちは、地球の隣人のことに心を寄せて、関心を持ち、大阪女学院が単に競争を勝ち抜く人材や能力を育てるのではなく、開校以来、平和と共生を目指し、かけがえのない^{いのち}生命・^{たまもの}賜物を中心に考え、正直に仕事をする人格を育むことに力を注いできた教育機関であることを再確認しておきたい。

2021年度事業計画は、①長期的な視点では、国が想定する2040年の姿を確認するものの、「VISION OJ140」及び策定作業を開始する学院150周年(2034年度)をイメージする運営像「VISION OJ150」を大阪女学院の未来への希望とすること、②短期的な視点では、財政と近い将来のリーダーシップの課題への対応に取り組むこと、を基本となる考え方とする。

II. 大阪女学院が推進すること=VISION OJ140に向かう運営

建学の精神(ミッションステートメント/2009年9月15日制定)

大阪女学院は、創造主を畏れキリストの教えに従って一人ひとりを愛し、何が重要であるかを見抜く力を養い、喜びをもって進んで社会に仕える人を育む

VISION OJ140

[大阪女学院が育もうとする学生・生徒像]

- *キリスト教に基づく愛と奉仕を実践する人
- *自由で主体的な学びの中から物事の本質を見つめ、進むべき道を選ぶことのできる人
- *英語力を基礎に幅広い教養と公正な判断力を身に付け、自律的・主体的に行動できる人
- *性別の役割にとらわれずに多様な可能性を探し求め、リーダーシップを覚えて、女性の尊厳の確立に努める人
- *社会の課題に関心を持ち、世界、日本、地域、人に仕える人

[140周年(2024年度)を迎える大阪女学院の姿]

「中学校から大学院まで キリスト教を基盤に全人格を育む女子・女性の教育機関」

1. 大学・短期大学の運営像

- (1) 地球環境、平和、差別、貧困及び女性の尊厳に関わる潜在的な課題に関する教育の展開
- (2) 英語運用能力の伸張と教養教育との融合を深化させる中で人格を育む教育の展開
- (3) 2024年度の全体像

短期大学:1学年100名 大学:1学年150名 全学学生数:800名+大学院生

(4) コンセプト

キリスト教教育、人権教育、英語教育及び専門教育を柱に、確かな自己認識と社会認識によって問題意識を育み、世界の様々な場で人々と協働する女性を育てる高等教育機関

2. 中学校・高等学校の運営像

- (1) 世界を見つめ、生き生きと社会で活動する女性を育む
- (2) 女性の視点での教育活動の展開
- (3) 2024年度の全体像

中学校:1学年4クラス150名 高校:1学年7クラス240名 全校生徒数:1170名

(4) コンセプト

平和と共生の実現に寄与する生徒を育む学校

3. 部門間の連携・協働の姿

- (1) 中学校から大学院までの教育研究機関であり、キリスト教を基盤に全人格を育む女子の学校であることを地域社会に広く報せる。
- (2) 大学院の研究成果(国際共生、平和)が、短大・大学にとどまらず、中学校・高等学校の中に活かされる教育を展開する。
- (3) VISION OJ140、第Ⅲ期中期計画に則って、部門間の連携・協働がより充実している。

4. 教育研究活動を支える学院運営の姿

- (1) 女性が働くための課題と職場環境の充実
- (2) 学院全体が協働する運営組織とシステムの構築
- (3) 健全な財務体質への転換
- (4) キャンパス施設設備の維持及び新設計画

(注)VISION OJ140は2019年度に一部改訂したものです。

Ⅲ. 2021年度の事業運営課題と取組み

2021年度の事業運営課題への対応は、学院運営会議(学内理事会)を中心として取り組む。

1. 神さまが創造された大阪女学院と生徒・学生の若き生命^{いのち}に仕える私たちの基本姿勢「神さまに委ねられて
いる一人ひとりの生命と賜物^{いのち たまもの からだ}と身体を大切に守り育むこと」を確認する。
2. 第Ⅲ期中期計画(2020~2024年度、策定過程)に則った2020年度事業の取り組みを評価した上で、
2021年度事業計画を実行する。
3. VISION OJ150(2034年度/150周年/運営像)の策定の検討を開始する。
4. 2021年度から4年間の役員体制(2021~2024年度)の構築、関連した次世代の運営管理体制(管理
職体制)の構築、クリスチャン条項に関する検討に取り組む。
5. 自然災害、コロナウイルスに代表される感染症に備えて、危機管理体制の再構築と共に、生徒・学生、教職員、
関係者に対する安全・健康・防災教育を展開する。
6. 学院全体の課題である「事務職員の養成計画」「施設整備計画、資産活用計画及び財政運営計画」「短期
大学・大学の学科等の将来構想、中学校・高等学校の将来構想」を具体化し、実行に移す。
7. 健全財政の確立に向けて、特定資産(施設整備積立、退職金積立)の引当を実行する。